

北九州市立医療センター

研修医 小川 のり子 2015年11月

北九州市立医療センター初期研修医2年目の小川のり子です。11月の1ヶ月間、出水総合医療センターで地域医療研修をさせていただきました。

はじめの2週間はそれぞれ高尾野、野田の診療所を1週間ずつまわらせていただきました。高尾野診療所では午前中外来診察、午後は在宅の方の往診や病棟業務を、野田診療所では午前は上部消化管内視鏡や腹部エコーなどの検査と外来診察、午後は往診をさせていただきました。診療所をかかりつけとしており定期的に受診されている方の外来では、患者さんそれぞれでベースの疾患や問題、他への紹介が必要かどうかなど異なり、各科を全般的に統合して診られていました。受診された患者さんの症状だけでなく、最近はどう過ごしているのか、仕事はできている？家族はどうか？介護等していれば疲れは出ていないか？など周りの環境や精神状態、心身ともに健康であるのかを世間話を通して聞き出し気にかけて言葉かけをしていたのが印象的でした。また予定された外来だけでなく外傷や喘息発作など急な対応が必要な症例もあり、診療所で対応できるものであれば縫合や点滴を行いました。診療所の周りには個人病院でも外科系疾患を診る所は少ないようです。診療所では先生が1人や2人で診療されており、予定外のことがあればそれだけ予定の外来に影響が生じ1-2時間以上予定よりも遅れるといったことが頻繁にありましたが、それでも待たされた、と言う患者さんはおらず、患者さんが多くて大変ね、とねぎらってくれる方が多かったのも印象的な場面でした。病院が少ない所だから、緊急のことがあればお互いさま、と感じておられるようでした。

往診でも、年々家で診ている方が少なくなってきたとのことでしたが、1件1件自宅もしくはグループホームへ出向き、変わりないかの確認や必要であれば採血や点滴も自宅で行われていました。在宅で診ておられる患者さんは動きにくい方も多く、介護者も同様にお年寄りというケースもあり、なかなか自分で外来へ来ることは難しいと思います。そんな中、地域に根付く診療所の役割は大きいもので、地域の患者さんの心の支えになっているように感じられました。

出水総合医療センターでは外科、消化器センターでの研修をさせていただきながら、地域医療連携、医療安全、検査科、リハビリについて学ばせていただき、患者さんを取り巻く医療現場での多職種での連携の必要性を感じました。様々な外科手術にもつかせていただき、また搬送の問題や緊急時の輸血など、地域ならではの大変な点も伺い知ることができました。

1ヶ月という短い間でしたが、地域に根付く医療の重要性とともに、そこに生じる問題にも気付かせていただく貴重な時間となりました。今後の医療に生かしていければと思います。指導して下さった先生方や関係者の皆様、どうもありがとうございました。